

1 調査研究の背景

学校では授業や校務でICTを効果的に活用することが求められている。

- (1) 教職員の困りや苦手分野に焦点を当て、克服する手立てを探る。
- (2) 教職員のICT操作スキル向上や授業でのICT活用を進める教職員研修に反映させる。
- (3) 学校の学習端末の使用状況や無線LAN等の通信環境を再調査し、次期端末更新時における課題を準備する。

2 調査研究の内容

- (1) 県内18市町村教育委員会を令和3年6～8月に訪問し、聞きとり調査を実施

[1] 教職員の困り

- ▲インターネット環境が十分に整備されていない。
- ▲インターネット上に実践事例集があるが、ICTを活用した授業の好事例を検索する時間がとれていない。
- ▲児童生徒の個別最適な学びを伸長させる手立てを見つけることが難しい。

[2] 市町村教育委員会や学校の課題

端末持ち帰りについてのルール作りや教職員の共通理解、保護者の家庭Wi-Fi環境構築への理解等

[3] 整備済み端末に対するOSごとの割合(台数)

	Chrome OS	Windows	iOS
全国	40.0%	30.9%	29.1%
大分県	1.9%	11.5%	86.6%
	※玖珠町 九重町	※国東市 大分市(小・中)	

○県内ではiPadが多く整備されている。
○多くの学校で同じ環境で授業を行っており、オリジナルに作成した教材を共有できるメリットがある。

(2) 全国学力・学習状況調査のCBT化に向けた課題

文部科学省「学力調査のCBT化検討ワーキンググループ」(第11回)「最終まとめ」(案)[令和3年7月]

- 児童生徒の学力を的確に測るためには、児童生徒が端末の基本的な操作や端末を用いた学習に習熟した上で、端末を用いた調査に違和感なく取り組めるようになることが重要
- 原則として悉皆で実施している全国学力・学習状況調査(悉皆調査)と、それを補完する調査として、IRT(Item Response Theory: 項目反応理論)を採用し、抽出により全国的な学力の状況について把握する経年変化分析調査及び保護者に対する調査(経年調査)を、いわば国が実施すべき主要な調査の「二本柱」として位置づけ直し、整理することが提言

→児童生徒がICT端末使用に慣れておく必要がある。教職員の働き方改革にもつながる小テストや振り返りテスト等CBTによる試験実施に取り組み、児童生徒がCBTに慣れ、CBTで学力を正しく測定できる準備が必要である。

(3) ICT端末活用を進める本センター総務企画部の手立て

ICT端末を授業に活用する以前に

- ▲どのように操作すればよいのかわからない
 - ▲日常生活で使ってはいるが、授業でどのように活用すればよいかなど、困りに感じている教職員が予想以上に多くいる。
- ICTスキル向上研修を実施する必要性が明確になり、研修を新設。

令和4年度 テーマ別研修「ICTスキル向上研修」の概要

研修	内容	
文書作成ソフト(Word)活用	(1) 公文書作成	(2) 学習指導案作成
動画編集(Windows/iPad)	(1) 動画編集(基本)	(2) 動画編集(活用)
ICT端末(iPad)活用	(1) アプリ授業活用例の実践	(2) AirDrop(ファイル共有)
ペーパーレス化推進	(1) Googleドライブ活用	(2) Googleフォーム活用
表計算ソフト(Excel)活用	(1) 個票印刷Vlookup関数活用	(2) PDF自動作成VBAマクロ活用

3 次年度調査研究(2年次)の計画

今年度県内のICT端末活用の状況をまとめた。

次年度は、上記研修受講者から具体的な困りや苦手分野、必要と考えるスキルを明確にし、校務のICT化の状況および県内外のICT端末活用の状況を調査研究予定である。

※本調査研究の詳細は、総務企画部『1人1台学習端末の有効活用に関する調査研究(1年次)』を参照